

# パナルジン錠 100mg パナルジン細粒 10%

## 【この薬は？】

販売名	パナルジン錠 100mg Panaldine Tablets 100mg	パナルジン細粒 10% Panaldine Fine Granules 10%
一般名	チクロピジン塩酸塩 ticlopidine hydrochloride	チクロピジン塩酸塩 ticlopidine hydrochloride
含有量	100mg (1 錠中)	100mg (1g 中)

## 患者向医薬品ガイドについて

**患者向医薬品ガイド**は、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」  
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

## 【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗血小板剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、血液の中の血小板の働きを抑えることにより、血管の中で血の塊（血栓）ができやすくなっている状態を改善し血栓症の再発を防ぎます。
- ・次の病気の人に処方されます。

**血管手術および血液体外循環に伴う血栓・塞栓の治療ならびに血流障害の改善  
慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの阻血性諸症状の改善**  
(閉塞性動脈硬化症など手・足の血栓症に伴い、潰瘍、疼痛、冷感などの症状がある人)

**虚血性脳血管障害（一過性脳虚血発作（TIA）、脳梗塞）に伴う血栓・塞栓の治療**

**クモ膜下出血術後の脳血管攣縮に伴う血流障害の改善**

- ・この薬は、体調がよくなったと自分の判断で使用を止めたり、量を加減すると、

病気が悪化したり、再発することがあります。指示どおりに使用することが重要です。

## 【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、無顆粒球症、重篤な肝障害等の重大な副作用が発現し、中には死亡にいたる例も報告されています。副作用を思わせる初期症状を自覚したらただちに医師等に連絡し、指示に従ってください。[この薬の使用中に気をつけなければならないことは？]の項を確認してください。このような副作用は、ほとんどの場合、飲み始めてから2か月以内にわかります。
- 飲み始めの2か月間は、重大な副作用の早期発見のため定期的に血液検査を行う必要があるので、原則として2週に1回受診するよう指示されます。その後も定期的に血液検査などが行われます。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
  - ・出血している人
  - ・肝臓に重篤な障害のある人
  - ・白血球が少なくなっている人
  - ・過去にパナルジンなどチクロピジン塩酸塩を含む薬で白血球が少なくなったことがある人
  - ・過去にパナルジンなどチクロピジン塩酸塩を含む薬で過敏な反応を経験したことがある人
- 次の人は、原則としてこの薬を使用することはできません。
  - ・肝臓に障害のある人
- 次の人は、慎重に使う必要があります。使用する前にそのことを医師または薬剤師に教えてください。
  - ・月経期間中の人
  - ・出血しやすい人
  - ・肝臓に障害があった人
  - ・白血球が少なくなったことがある人
  - ・高血圧の人
  - ・手術（抜歯を含む）を予定している人
  - ・高齢の人
  - ・過去にプラビックスなどクロピドグレル硫酸塩を含む薬で過敏な反応を経験したことがある人
- この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

## 【この薬の使い方は？】

### ●使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

一般的に使用する量と回数は次のとおりです。

効能・効果（飲む目的）	飲む錠数・量	服薬回数
血管手術および血液体外循環に伴う血栓・塞栓の治療ならびに血流障害の改善	1日2～3錠または細粒2～3g	1日2回、朝・夕、または1日3回、朝・昼・夕の食後30分以内に飲むよう指示されます。

慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの阻血性諸症状の改善	1日3～6錠または細粒3～6g	1日2回、朝・夕、または1日3回、朝・昼・夕の食後30分以内に飲むよう指示されます。
虚血性脳血管障害に伴う血栓・塞栓の治療	1日2～3錠または細粒2～3g	1日1回、朝・昼・夕のいずれか、または、1日2回、朝・夕、または、1日3回、朝・昼・夕の食後30分以内に飲むよう指示されます。
クモ膜下出血術後の脳血管攣縮に伴う血流障害の改善	1日3錠または細粒3g	1日3回、朝・昼・夕の食後30分以内に飲むよう指示されます。

### ●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲みます（細粒剤は、長く口の中に含んでいると、苦味が残ることがあるため速やかに飲み下してください）。

### ●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一緒に飲まないでください。

気付いたらすぐに1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近いときは忘れた分を抜いて、次回から指示どおり飲んでください。

### ●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら医師または薬剤師に相談してください。

## 【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・飲み始めの2か月間は、重大な副作用の早期発見のため定期的に検査を行う必要があるため、原則として2週に1回受診してください。その後も定期的に血液検査などが行われます。
- ・けがをしないように注意してください。出血した場合、血が止まりにくくなっています。出血が長引く場合やけがの範囲が大きい場合は、ただちに受診してください。
- ・手術や歯の治療などを受ける場合、必ずパナルジンを飲んでいることを医師に伝えてください。
- ・風邪などで他の薬を購入する場合は、必ずパナルジンを飲んでいることを薬局の薬剤師に伝えてください。
- ・妊婦または妊娠の可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳は避けてください。

## 副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
血栓性血小板減少性紫斑病（TTP） けっせんせいけっしょうばんげんしょうせいしはんびょう（ていーていーびー）	発熱、体がだるい、あおあざができる、鼻血、唾液、痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、尿量が減る、白目が黄色くな

重大な副作用	主な自覚症状
	る、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、意識の低下
無顆粒球症 むかりゆうきゆうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
重篤な肝障害 じゅうとくなかんしょうがい (げきしょうかんえん, たんじゅううったいがたかんしょうがい)	体がだるい、吐き気、食欲不振、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる (鮮紅色～暗赤色または黒色)、意識の低下
再生不良性貧血 さいせいふりょうせいひんけつ	めまい、体がだるい、息切れ、動悸 (どき)、あおあざができる、出血が止まりにくい、発熱、寒気、喉の痛み
汎血球減少症 はんけつきゅうげんしょうしょう	めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきからの出血、息切れ、動悸、あおあざができる、出血しやすい、発熱、寒気、喉の痛み
赤芽球癆 せきがきゅうろう	体がだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ
血小板減少症 けっしょうばんげんしょうしょう	鼻血、唾液、痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
出血 (脳出血等の頭蓋内出血, 消化管出血等の重篤な出血) しゅっけつ (のうしゅっけつなどのずがないしゅっけつ, しょうかかんしゅっけつなどのじゅうとくなしゅっけつ)	<b>【脳出血】</b> 突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしにくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐、突然のめまい、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる <b>【消化管出血】</b> 吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる (赤色～茶褐色または黒褐色)、腹痛、便に血が混じる、黒い便が出る
中毒性表皮壊死融解症 (TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう (テン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
多形滲出性紅斑 たけいしんしゅつせいこうはん	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、発熱、関節の痛み、喉の痛み
紅皮症 (剥脱性皮膚炎) こうひしょう (はくだつせいひふえん)	ほぼ全身の皮膚が発赤する、発熱をしばしば伴う、しばしばフケのようなものがはがれ落ちる
消化性潰瘍 しょうかせいかいよう	吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる (赤色～茶褐色ときに黒色)、腹痛、胃がむかむかする、黒い便が出る
急性腎障害 きゅうせいじんふぜん	尿量が減る、むくみ、体がだるい

重大な副作用	主な自覚症状
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
SLE 様症状（発熱、関節痛、胸部痛、胸水貯留、抗核抗体陽性等） えすえるいーようしょうじょう（はつねつ、かんせつつう、きょうぶつう、きょうすいちよりゅう、こうかくこうたいようせいなど）	体がだるい、関節の痛み、発熱、顔の赤い発疹、体重が減る

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、突然の高熱、体がだるい、寒気、食欲不振、体がかゆくなる、急激に体重が増える、体重が減る、出血が止まりにくい、出血しやすい、発熱をしばしば伴う、むくみ
頭部	意識の低下、めまい、頭痛、突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然の頭痛、突然のめまい、しばしばフケのようなものがはがれ落ちる
顔面	鼻血、顔の赤い発疹
眼	白目が黄色くなる、目の充血やただれ
耳	耳鳴り
口や喉	唾液、痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、喉の痛み、吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、突然の嘔吐、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる、唇や口内のただれ、咳
胸部	動悸、息切れ、息苦しい
腹部	お腹が張る、胃がむかむかする、腹痛
手・足	関節の痛み、突然片側の手足が動かしにくくなる
皮膚	あおあざができる、皮膚が黄色くなる、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、ほぼ全身の皮膚が発赤する
便	便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、便に血が混じる、黒い便が出る
尿	尿量が減る、尿の色が濃くなる

### 【この薬の形は？】

販売名	パナルジン錠 100mg	パナルジン細粒 10%
PTP シート		—

形状	円形の錠剤	細粒
直径	8.3mm	—
厚さ	4.6mm	—
重さ	約 208mg	—
色	白色～淡黄白色	白色～微黄白色
識別コード	saPN	—

## 【この薬に含まれているのは？】

販売名	パナルジン錠 100mg	パナルジン細粒 10%
有効成分	チクロピジン塩酸塩	チクロピジン塩酸塩
添加剤	乳糖水和物、トウモロコシデンプン、カルメロース、ポリビニルアルコール（部分けん化物）、硬化油、ショ糖脂肪酸エステル、ヒプロメロース、酸化チタン、マクロゴール6000、タルク、ジメチルポリシロキサン、二酸化ケイ素	乳糖水和物、結晶セルロース、トウモロコシデンプン、ヒプロメロース、メタクリル酸コポリマーLD、ラウリル硫酸ナトリウム、ポリソルベート80、マクロゴール6000、タルク、ショ糖脂肪酸エステル、軽質無水ケイ酸

## 【その他】

### ●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

### ●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

## 【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：チェプラファーム株式会社

(<https://www.cheplapharm.jp/>)

メディカルインフォメーションセンター

電話：0120-772-073

受付時間：9時～17時

（土・日・祝日・当社休業日を除く）